

平成 30 年度 事業報告

公益財団法人九州先端科学技術研究所は、九州地域におけるシステム情報技術、ナノテクノロジーなど先端科学技術の研究開発等を行うことにより、産業の振興と経済社会の発展に資することを目的として、平成 30 年度は以下の公益目的事業を実施しました。

<事業体系と主な財源>

◎は主な財源、○は◎の管理経費分を充当

事業体系	福岡市 補助金	国補助金 委託料等	民間・大学等 委託料等	該当 頁
I 研究開発事業 ※ 実証実験事業を含む				
1. 定常型研究・事業	◎			P. 14
2. プロジェクト型研究・事業		◎		P. 24
3. 受託・共同研究・事業			◎	P. 26
4. 研究成果の公表	◎	○	○	P. 27
II 産学官連携による新産業・新事業の創出 支援事業	◎	○	○	P. 28
III コンサルティング事業	◎	○	○	P. 37
IV 情報の収集及び提供事業	◎	○	○	P. 38
V 人材育成事業	◎	○	○	P. 39
VI 内外関係機関との交流及び協力事業	◎	○	○	P. 43

I 研究開発事業

1. 定常型研究・事業

中長期的かつ戦略的に重要なテーマで行う研究開発事業及び実証実験事業

(1) オープンイノベーション・ラボ (OIL)

IT、IoT 分野において、これまでの研究開発中心から、社会、産業界への「橋渡し」を重視した実証実験中心へと改革、再編することとし、平成 28 年度までのシステムアーキテクチャ研究室、情報セキュリティ研究室、生活支援情報技術研究室の 3 研究室体制を、平成 29 年度から「オープンイノベーション・ラボ (略称：OIL)」の 1 組織体制として始動しました。

これまで培ったテクノロジーや九州における大学等の学術研究機関のシーズを活かし、社会に貢献する最先端 IT 技術を活用した社会実装、社会実証を産学官連携で推進しています。

【テーマ】 社会実装、社会貢献を目的とした最先端 IT システムに関する実証実験

(1-1) オープンイノベーションのハブ

オープンイノベーションによる課題解決の場として、九州地域の経済産業振興に資する役割を担います。これにより、産業界の課題やニーズに対応することで、九州地域におけるスタートアップの支援や地方創生の実現を支援します。

① IoT に関わる企業における連携の推進

平成 28 年 11 月に、IoT 関連の企業、大学等の団体及び個人が参加可能なオープンなコンソーシアムとして設立した「福岡市 IoT コンソーシアム」において、データを活用した地域

の課題解決の事例や知見を共有し、IoT 関連分野における新製品・サービスの創出を促進することで、持続可能で多様な人々が参加できる社会の実現を目指しています。

平成 30 年度は、コンソーシアム会員からのアンケートを踏まえて、4つの新たなワーキンググループ（WG）を組織し、社会実証実験に向けた活動をめざし、会員間で課題の共有や解決へ向けた議論、最新技術の勉強会や企業・組織間でのマッチング活動を行いました。

② エンジニアフレンドリーシティ福岡事業

エンジニアと福岡市が協力し、エンジニアが福岡市に集まり、活躍、成長する街、エンジニアが福岡市で働きたいと思うような街づくりを目指す取組みとして、平成 30 年 8 月より福岡市と共同でエンジニアフレンドリーシティ福岡（EFC）事業を実施しています。

※①IoT に関わる企業における連携の推進（福岡市 IoT コンソーシアムの活動）及び

②エンジニアフレンドリーシティ福岡事業 については、産学官連携によるプロジェクトとして「II 産学官連携による新産業・新事業の創出支援事業」（28～31 ページ）に記載。

③ Fukuoka AI Community の中核メンバーとして、コミュニティの活動を支援

実証実験から生まれるデータや日々の暮らしから生み出される膨大なデータを AI で分析・最適化し活用することにより、新たなサービスの創出や関連産業の振興を図るため、平成 29 年 12 月に設立された、官民一体となって市内の AI 活用を推進する組織である Fukuoka AI Community の中核メンバーとして、次の活動方針のもとでコミュニティの活動を支援しています。

(1) AI 活用による地場企業の労働生産性向上ならびに新サービス支援

(2) AI 活用を提供する地場 ICT 企業技術者の育成、技術力向上を支援

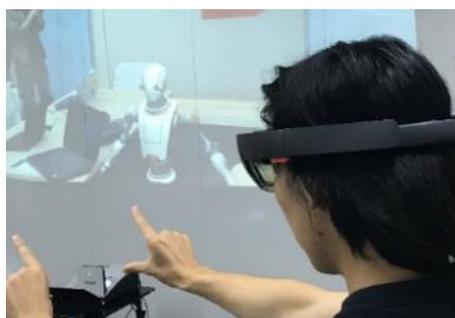
地場 AI 関連企業と連携した AI 関連イベント・セミナーとして、第 3 回ふくおか AI・IoT 祭り in SRP（平成 31 年 2 月 15 日）において、Fukuoka AI Community ブースを設けて、AI 利活用事例（企業数社）のデモ・展示を行いました。また、九大-理研-福岡市・ISIT 三者連携シンポジウム「数理・AI が解く未来！～計算科学の展開と期待～」（平成 30 年 5 月 15 日）及び、九大-理研-福岡市 ISIT 三者連携フォーラム「データ×サイエンス×ビジネス ～AI・デジタルで社会を変える～」（平成 31 年 3 月 6 日）の開催協力を行ないました。

④ SRP オープンイノベーション・ラボの企画、運営による地域の開発者との連携の推進

地域におけるオープンイノベーション推進を支援することを目的とした「SRP Open Innovation Lab（略称：SRP-OIL）」（開設：平成 30 年 3 月）において、AI/IoT/ビッグデータ/AR・VR 等、先端技術事例紹介・展示・体験やセミナー・イベントなどの企画・運営を行い、地域の開発者との連携を推進しました。また、国内外からの各種視察・見学を受け入れました。

【SRP-OIL 運営実績（平成 30 年度）】

来場者数：1,600 名、イベント開催数：50 回、イベント参加者数：500 名



【SRP-OIL の機能】

[1] ショールーム：ICT 技術を体験し、課題解決ヒント獲得

AI のソリューション展示／IoT センシング事例展示／AR や VR デバイス体験／
オープンデータ活用事例紹介

[2] 人材交流スペース：人脈形成、技術伸長の機会提供

技術者向けセミナー、イベントの開催／
地域技術者交流、各種コミュニティとの連携／コワーキングスペースとして開放／
技術書の閲覧

[3] 技術相談：先端技術についての疑問を相談できる場の提供

AI (機械学習・ディープラーニングなど)／IoT (LoRaWAN、社会実証実験)／
データ利活用 (オープンデータ)／可視化 (AR/VR など)
→各種セミナーや講演等を実施、平成 30 年度 7 月からは「SRP-OIL 水曜セミナー」として
毎週開催「V 人材育成事業 ISIT 技術セミナー」(40 ページ)に記載

【SRP Open Innovation Lab FGN 分室】

また平成 30 年 10 月には、福岡地域戦略協議会 (FDC) と連携し、FukuokaGrowthNext (FGN) の FDC 執務室内に SRP Open Innovation Lab の分室を開設しました。(平成 31 年 1 月末、FGN 閉鎖に伴い撤去済)



図：SRP Open Innovation Lab FGN 分室

(1-2) 社会実装、社会実証を推進実行する DoTank

DoTank として、社会実装、社会実証実験を産学官連携で推進実行します。これにより、優れた発明・発見を、実社会での実装や実証に供し、社会において競争力のある価値の創造につながるイノベーションの創出を支援しています。

① ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州 (BODIK) の事業化

「オープンデータ事業を通じて、産学官の垣根を超えたデータの利活用を促進し、九州全域のスマート化に貢献する」ことを目標としたスマート九州プロジェクトを促進させるため、オープンデータセンターを開設し、[1]オープンデータカタログサイト、[2]オープンデータモニター、[3]オープンデータユニファイド API、[4]セミナー・研修 のサービスを提供しています。

[1] BODIK オープンデータカタログサイト

自治体が無償でオープンデータサイトを公開できるサイトとして、BODIKオープンデータカタログサイトを運用しています。現在、26自治体、2広域都市圏が利用中で、12自治体が正式導入に向けて試行中です。(平成31年3月末現在)

正式導入：26自治体、2広域都市圏

佐賀県、長崎県

福岡市、宇部市、久留米市、大川市、小郡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、太宰府市、古賀市、福津市、うきは市、糸島市、那珂川市、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮

町、久山町、粕屋町、大刀洗町、大木町、
福岡都市圏、久留米広域連携中枢都市圏
試行中：12自治体

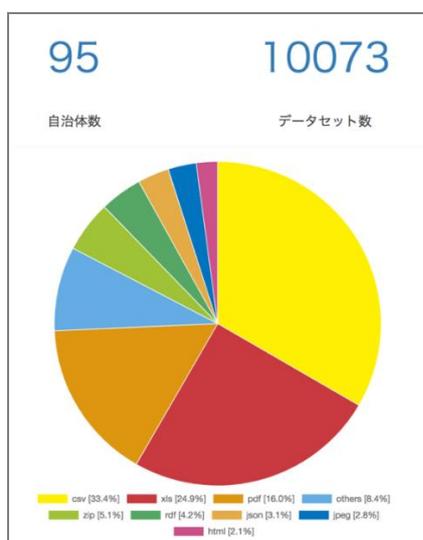
宮崎県

阿波市、八女市、筑後市、嘉麻市、鞍手町、広川町、佐世保市、波佐見町、新上五島町、
鹿屋市、誼谷村

[2] BODIKオープンデータモニター

BODIKオープンデータモニター（BODIK ODM）は、全ての自治体のオープンデータを集めた自治体オープンデータのワンストップポータルです。現在、95の自治体のデータカタログサイトで公開されている約1万件のデータセットをワンストップで利用できます。（平成31年3月末現在）

BODIK ODCSを利用している自治体に対しては、データカタログサイトのページビュー数、リソースファイルのダウンロード数、APIによるアクセス数などのアクセス分析データを毎月1回、自動的に収集・整形して提供しています。

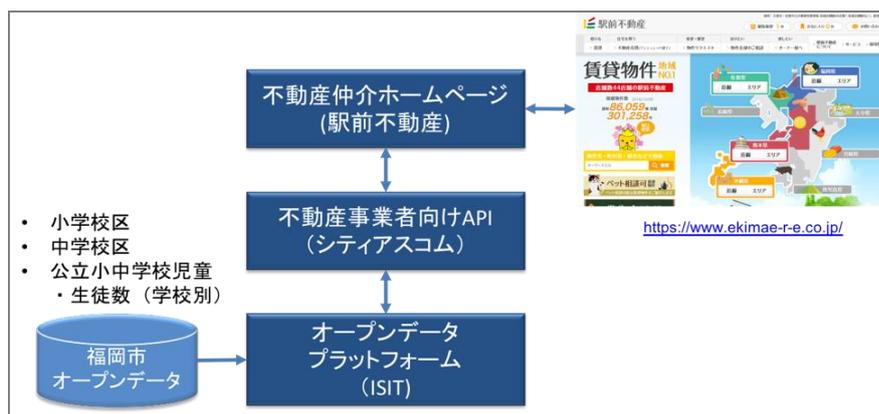


図：BODIKオープンデータモニターによるモニタリング結果

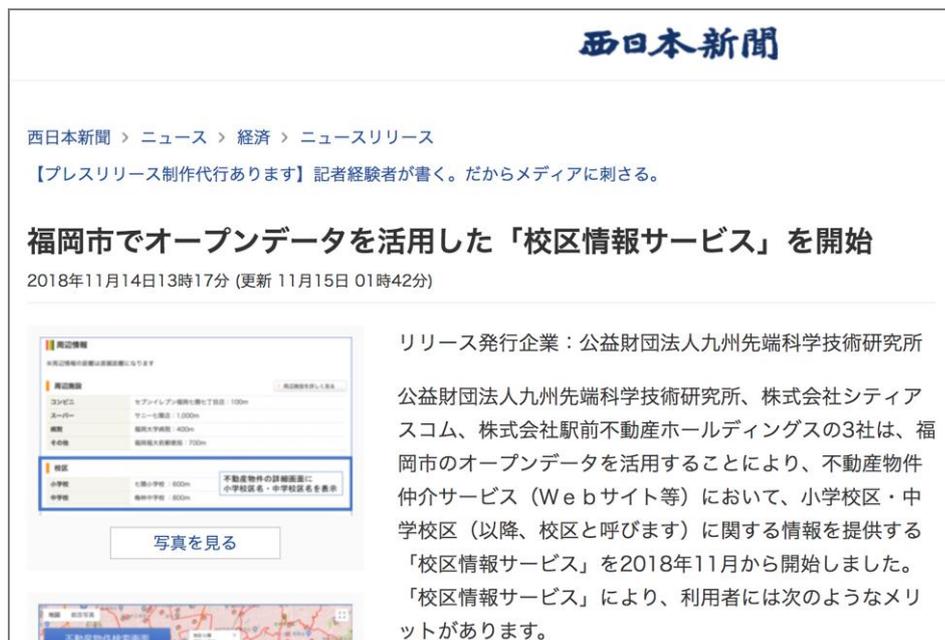
[3] BODIKオープンデータユニファイドAPI

BODIKオープンデータユニファイドAPI（BODIK ODU）は、複数の自治体のオープンデータを標準化した上で、API（アプリケーション・プログラミング・インターフェース）を通じて横断的に利用できるデータプラットフォームです。

地理空間情報データ（GeoJSON）をアクセスする「GeoShape API」を開発し、2018年11月に株式会社シティアスコム、株式会社駅前不動産ホールディングスと共同で不動産物件の緯度及び経度から校区を自動判定して表示する「校区情報サービス」を開始しました。サービス開始以降、BODIK ODU のGeoShape APIは1日あたり約1万回利用されています。「校区情報サービス」については、西日本新聞、CNET Japan、産経デジタルなど5媒体以上に掲載されました。



図：校区情報サービス



図：西日本新聞への掲載実績

[4] セミナー・研修

自治体でオープンデータを推進するリーダー（オープンデータリーダー）を育成する研修を総務省から受託（富士通株式会社からの再委託）し、研修用コンテンツを新規に開発し、6都道府県でオープンデータリーダー育成研修を実施しました。また、富士通株式会社からの委託を受け、2都道府県に研修講師を派遣しました。

※「3. 受託/共同研究・事業」（26～27ページにも記載）

研修実施都道府県：福岡県、熊本県、宮崎県、沖縄県、栃木県、北海道（帯広）
講師派遣都道府県：青森県、新潟県



図：総務省オープンデータリーダー育成研修の開催場所

また、内閣官房IT総合戦略本部の実施するオープンデータ研修においてBODIK ODCSを利用した実習を行いました。当研修は42の自治体が受講しました。



図:オープンデータリーダー育成研修の様子

② 生活支援情報技術の研究開発

人間生活を支援するインタフェース環境（情報と人との接点）を実現するための研究開発を行いました。

(1) 装着型センサを使用した様々な運動・生体情報の計測・可視化に関する研究

人の運動の様子を計測するモーションキャプチャシステムと、筋電などの身体内部の運動の様子（生体信号）や関節角度を取得・計測するセンサ・システムを組み合わせ、それを記録・可視化する人間計測技術の開発に取り組みました。リハビリやスポーツの分野での応用を目指しています。

平成 30 年度は、大分リハビリテーション病院と共同で腕の加速度や筋肉の動きを使ってキャラクターを操作するゲームを試作し、患者が楽しみながらリハビリを行えるシステムの実現に向けた取り組みを行いました。（平成 29 年度から継続実施）



図：装着型センサを使用した運動・生体情報の計測・可視化

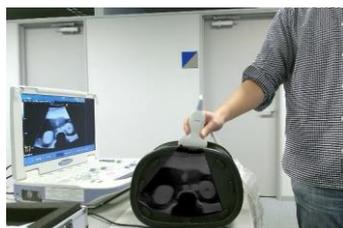
図：リハビリゲームシステム

(2) 拡張現実感を用いたエコー検査支援に関する研究

臓器の断面画像を撮影する方法として、CT や MRI と比べ安全性が高いエコー検査（超音波診断）がよく用いられます。その際に、臓器の形や操作方法の指示を患者の体上に仮想的に表示し、撮像を補助するシステムの実現に取り組んでいます。将来、遠隔診断を支援するシステムへの応用を目指しています。

平成 30 年度は、超音波検査に用いるプローブの位置・角度をリアルタイムに推定し、撮影している断面の位置・角度を眼鏡型ディスプレイ（HMD: Head Mounted Display）を装着した検査者の目の前に表示することを実現しました。（平成 29 年度から継続実施）これにより、本来は同時に観察することができない「プローブを操作する手元と超音波断層像」を同一視野内で確認でき、医学生や経験の浅い医師への理解の促進を目指したシステムを開発しました。さらに PC のモニタを用いた従来型の AR システムと HMD を用いた一人称視点

での AR とでの撮像支援における効果の違いについて検証を行いました。



図：断層像の重ね合わせ

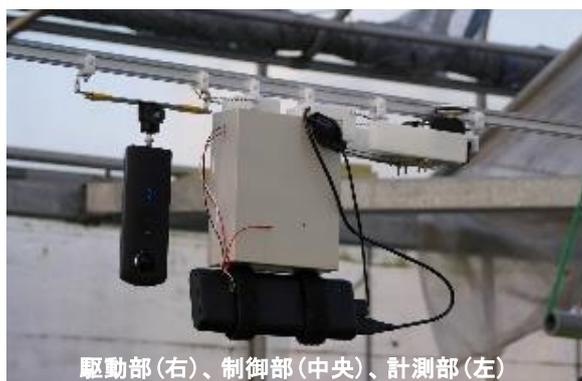


図：検査者の視点

(4) 農業 SNS プロジェクト

センサや情報ネットワークを通じて得られる農作物生産時の情報（温度、湿度、日射量、作業内容、作業日時、作業者等）を自動取得するシステムや、得られた情報を消費者に分かりやすく提示する方式等を研究しています。

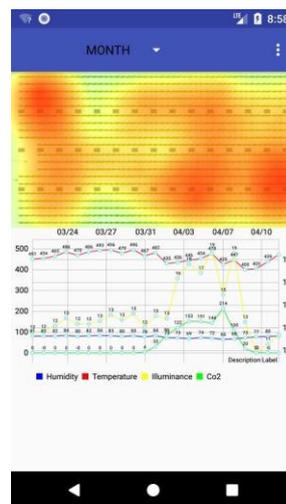
平成 29 年度に採択された農林水産省のプロジェクトにおいて、イチゴハウス内を移動する環境情報・作物画像計測システムの開発を行っており、平成 30 年度は、九州大学農場において試作機の移動実験を行いました。環境情報・作物画像のスマートフォン用可視化アプリの開発では、10 軒のイチゴ農家へのインタビュー調査に基づき、圃場の温度・湿度などの時系列データだけでなく空間分布を可視化するアプリの試作も行いました。また、試作したアプリを農家に操作してもらうことで操作性や必要な機能に関する聞き取り調査を行い、システムの改良を行いました。



駆動部(右)、制御部(中央)、計測部(左)

図：移動型センサ

計測部に画像センサを搭載したタイプ



図：スマートフォンアプリのプロトタイプの場合

(1-3) 産業界での商品化・産業化への橋渡し

優れた発明・発見から産業界での商品化・産業化への橋渡しを行います。これにより、豊かな社会・持続可能な社会の実現に貢献します。

これらの取り組みにおいて、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）情報・人間工学領域と締結した「連携協力に関する協定書（平成 30 年 2 月）」に基づき、平成 30 年度は、産総研九州センターが主催する「九州・沖縄産業技術オープンイノベーションデー（平成 30 年 11 月 16 日、宮崎市）」、「第 2 回産総研出前シンポジウム in 熊本 -AI・IoT が拓く社会と産業の将来-（平成 31 年 2 月 18 日、熊本市）」及び「産総研テクノブリッジフェア in 熊本（平成 31 年 2 月 27 日、益城町）」への開催協力や講演参加・出展等を行いました。

(2) マテリアルズ・オープン・ラボ (MOL)

平成 29 年度までナノテク研究室、有機光デバイス研究室の 2 研究室体制で取り組んできたオリジナリティの高い研究の推進や、九州大学分子システムデバイス国際リーダー教育センターとの連携など九州大学との強い連携による産学連携、人材育成の体制を継承しつつ、平成 30 年 4 月からは、2 つの研究室を光と有機・金属材料がかかわる「マテリアルズ・オープン・ラボ (略称: MOL)」として統合・再編し、オリジナリティの高い開発型研究と産業界への橋渡しの機能強化に向けた取り組みを意欲的に推進してまいりました。

【テーマ】 有機、無機、金属ナノ材料より構成される光機能素子・デバイスの創製に向けた基盤技術の開発

① ナノ材料グループ

(テーマ: ナノ・バイオ技術による環境対応型社会を実現するための新素材の開発)

(1) プラズモンナノ材料薄膜の作製と光・機械・電気特性

本研究課題では、ナノ材料の力学特性と光学特性を定量的に測定することで、ナノ材料の光・電気・機械特性の相関性を利用した新奇なナノデバイスの開発を目指しています。特にナノ材料のナノスケールの力学特性は未踏領域であり、研究が盛んで行なわれています。貴金属ナノ粒子から成る薄膜は光をナノスケールで操ることができる革新的なナノ材料として超小型光・圧力センサ等への応用が期待されています。本年度の研究では金属ナノ粒子で形成した 2 次元ナノ粒子薄膜をモデルとして利用しました。2 次元ナノ粒子薄膜は Langmuir 膜作製装置を利用しました。

得られた 2 次元ナノ粒子薄膜の力学強度測定法を確立することで、金属ナノ粒子の機械的強度変化を定量的に測定することに成功しました。

(2) 有機/金属薄膜における接着状態の解析技術開発

本課題は、科学技術振興機構 (JST) 未来社会創造事業「界面マルチスケール 4 次元解析による革新的接着技術の構築」(研究開発代表者 九州大学・田中敬二教授) 共同研究グループの一員として研究開発を行いました。この事業では製品開発の際に常に問題となっているものの、未だ体系的な研究が進んでいない「接着」という現象に焦点を当て、その学理を探ることから始めて、最終的にオートモーティブ等における革新的な接着技術を開発することを目的に採択され、研究グループが構成され、その一員として ISIT ナノ材料グループが入りました。

平成 30 年度は、界面 (表面) ナノスケール解析の設備・体制の整備を開始し、革新的接着技術の拠点化にむけての準備に協力を行いました。

② 有機光デバイスグループ

(テーマ: 次世代有機半導体光デバイスの創製に向けた革新的な共通基盤技術の開発)

(1) 高効率ペロブスカイト太陽電池の開発

これまでペロブスカイト型太陽電池の高効率化・長寿命化について検討を行ってきました。平成 30 年度は、低次元ペロブスカイトを導入した 2D-3D ハイブリッド技術を利用した純 Sn 系ペロブスカイト太陽電池の高効率化に取り組みました (図 3-1)。また、企業との共同研究の成果として、ペロブスカイト太陽電池を構成する上で重要であるホール輸送層の開発し高効率に成功しました (図 3-2)。本成果については、共同研究企業と共同で特許出願を行い、また、応用物理学会での発表を行いました。

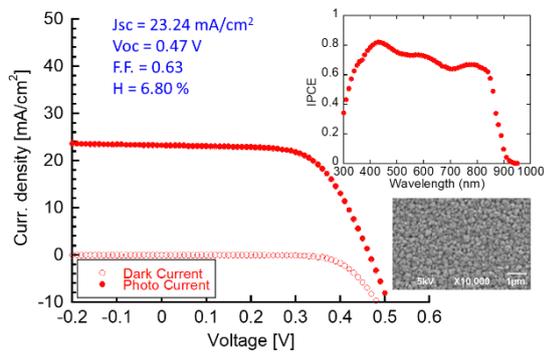


図 3-1. 2D-3D 化による Sn ペロブスカイトの高効率化

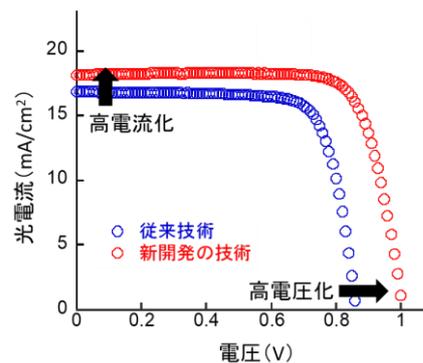


図 3-2. 新規開発 HTL による高効率化

(2) ペロブスカイト微粒子分散フォトリフラクティブポリマーの作製と特性評価

光情報処理のエンジンとして働くフォトリフラクティブ (PR) デバイスの高速化と長波長感度向上を目的として、ペロブスカイト微粒子を感光剤として用いた有機 PR ポリマーを提案し、研究開発を実施しています。

平成 30 年度は、性能向上の妨げとなる暗電流の抑制に取り組み、PR ポリマーの構成材料となる可塑剤を最適化することで、暗電流を低減した PR デバイスを得ることができました。さらに、高性能感光剤として多用される PCBM (フラーレン誘導体) と同等の性能が得られることが明らかにしました。これらの PR デバイスに関する研究開発は、理化学研究所と連携して取り組みました。(H29 年度から継続実施)

(3) 有機光デバイス作製・評価を中心とした共同研究・受託研究

有機光エレクトロニクスに関する蓄積した知見、技術、ノウハウに加え、さらに共同で研究開発を推進する企業の要望に応えられる評価・開発システムを迅速に取り込むことによって、多くの企業との共同・受託研究を実施しています。

プロジェクト型研究 (公募元: 次世代化学材料評価技術研究組合 (CEREBA)・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)) では、蛍光発光性の材料を用い、三重項-三重項消滅 (TTA: Triplet-Triplet Annihilation) による一重項励起子へのアップコンバージョンプロセスを活用し、蛍光発光性の材料を用いた理論最大外部量子効率である 5% を大きく超える 9.5% の純青色発光有機 EL 素子の開発に成功しました (図 3-3)。さらに、この有機 EL 素子は、ディスプレイの 3 倍強の輝度である 1000 cd/m² で連続駆動しても、6000 時間 (250 日) で 40% の輝度減衰しか見られず、非常に高効率、長寿命の有機 ELを実現できました。さらに、この有機 EL 素子を磁場中で発光させると、図 3-4 に示したように、発光強度の磁場依存性が発現し、磁性を有する三重項性があるラジカル対が発光に大きく影響を与えていることが分かってきました。今後、さらに詳細な発光機構解析を行い、高性能な有機 EL の発光プロセスを理解し、他の材料系で活用できるように継続して取り組む予定です。

また、企業から受託した研究開発においては、フレキシブル及びその封止に関する材料及びプロセスの開発に取り組みました。企業と本研究グループと共同で取り組んだ封止樹脂の性能は、飛躍的に向上し、パネルメーカーでの評価に進んだ材料も出てくるまでになりました。

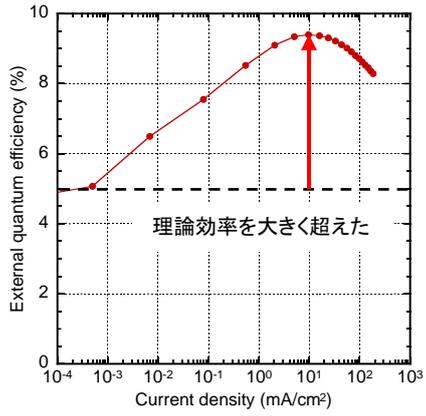


図 3-3. 純青色有機 EL 素子の効率

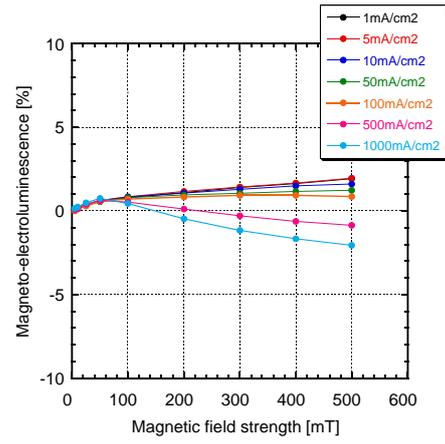


図 3-4. 発光強度の磁場依存性

2. プロジェクト型研究・事業

企業、大学等と連携を図り、国等の各種提案公募型研究制度へ提案し、競争的研究資金を獲得することにより研究開発・事業を行いました。また、当研究所の研究員が研究代表者あるいは研究分担者として、日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究助成を受けて研究を実施しました。

■国等の各種提案公募型研究制度による研究開発・事業 平成30年度実績

No.	課題名（公募制度名）・期間	共同研究機関	契約先・応募先
1	高齢者の特性に合わせた独自のロジックを持つ学習型人工知能を搭載した自動鑑別診断システムの開発（戦略的基盤技術高度化支援事業）	芙蓉開発(株)、(株)ロジカルプロダクト、長崎大学	経済産業省
2	イチゴの省エネ栽培・収量予測・低コスト輸送技術の融合による販売力・国際競争力の強化（革新的技術開発・緊急展開事業）	九州大学、長崎県立大学、大分県農林水産研究指導センター、佐賀県農業試験研究センター、長崎県農林技術開発センターほか全16機関・企業	農林水産省（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター）
3	次世代高効率有機 EL ディスプレイ用材料の開発・発光材料の発光機構解析（戦略的省エネルギー技術革新プログラム）	次世代化学材料評価技術研究組合（CEREBEA）、金沢工業大学、北陸先端大学、山形大学	CEREBEA・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
4	地方発イノベーション創出環境構築事業（地方創生推進交付金）	—	福岡市（内閣府）
5	植物成長促進による植物工場の生産性向上を実現する照射環境制御型プラズマ援用種子処理装置開発（戦略的基盤技術高度化支援事業） →プロジェクト型研究・事業の実施事例に記載 P25	(株)新興精機、九州大学、誠南工業(株)、三進金属工業(株)	経済産業省
6	界面マルチスケール4次元解析による革新的接着技術の構築（未来社会創造事業）	九州大学	科学技術振興機構（JST）

※その他「有機光エレクトロニクス実用化開発センター運営」等のプロジェクトに研究機関として参画しました。

■日本学術振興会の科学研究費助成事業 平成30年度実績

No.	研究課題名（種目）	研究代表者	研究分担者	期間
1	超音波診断支援のための動的なボディマーク生成に関する研究（若手研究B） →科学研究費助成事業の実施事例に記載 P25	吉永 崇 (ISIT)	—	平成29～31年度
2	超分子/高分子複合ゲルによる機能増幅と高感度センサへの応用（基盤研究C）	新海 征治 (ISIT)	田丸 俊一 (崇城大学)	平成29～31年度
3	光超音波検出器を志向した新原理に基づくフォトリラクティブポリマーの創製（基盤研究C）	藤原 隆 (ISIT)	—	平成29～30年度
4	認知症治療に向けた2機能型スーパー抗体酵素の開発（基盤研究C）	宇田 泰三 (ISIT)	田口 博明 (鈴鹿医療科学大学) 一二三 恵美 (大分大学)	平成30～ 令和2年度

5	プラズモン共鳴による発生した光誘起力の定量的測定法の開発（基盤研究C）	王 胖胖 (ISIT)	—	平成 29～31 年度
6	栽培時農業情報の融合のための植物モデル構築（基盤研究B）	有田 大作 (長崎県立大学)	吉永 崇 (ISIT)	平成 29～31 年度
7	低コスト・汎用デバイスを用いた高速植物フェノタイピングシステムの開発（基盤研究B）	岡安 崇史 (九州大学)	吉永 崇 (ISIT)	平成 30～ 令和 2 年度

※ 科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。（日本学術振興会）

【プロジェクト型研究・事業の実施事例】

件名	植物成長促進による植物工場の生産性向上を実現する照射環境制御型プラズマ援用種子処理装置開発（戦略的基盤技術高度化支援事業）（平成 30～32 年度）
公募元（契約先）	経済産業省
目的及び内容	九州大学グループが見出した種子へのプラズマ照射による成長促進効果を植物工場用種子に応用した「照射環境制御型プラズマ援用種子処理装置」を開発する。本プロジェクトでは、人工光型植物工場における主要作物であるレタスを当面の対象植物とする。 ※ターゲット市場：人工光型植物工場は 182 カ所、レタス類は 125 カ所 (日本施設園芸協会平成 30 年 3 月発表)
体制	事業管理法人：ISIT 研究等実施期間：(株)新興精機、九州大学、誠南工業(株)、三進金属工業(株)

【科学研究費助成事業の実施事例】

件名	「超音波診断支援のための動的なボディマーク生成に関する研究」 日本学術振興会・科学研究費助成事業・若手研究（B）（平成 29～31 年度） 研究代表者：吉永 崇（ISIT）
目的及び内容	超音波診断は CT や MRI と比べて安全性が高く、検査を繰り返し行える画像診断法であるため疾患部の経過観察に多く用いられています。しかし、撮像を行うにはプローブを手動で操作する必要があるため同一の断層像の取得は容易ではありません。研究代表者は、熟練医師が撮像した際のプローブの位置・姿勢を記録し再検査時に AR 技術で可視化する撮像支援システムを開発してきました。 本研究では、同システムにおいて、これまで不可能であった「動的なプローブ操作の記録」や「可視化による補助」を可能にすることを目指しています。

3. 受託/共同研究・事業

(1) 受託研究・事業

企業、大学、行政等から比較的短期の研究や調査等の委託を受け、以下の研究開発・事業を行いました。

No.	件名	委託元
1	有機ELデバイスの作製	企業
2	フレキシブルデバイス要素技術検討	(公財)福岡県産業・科学技術振興財団
3	有機ELデバイスの試作	企業
4	有機EL封止材料の評価	企業
5	オープンデータに関する研修 →受託/共同研究・事業の実施事例1に記載 P15	企業
6	有機ELデバイス封止技術の検討	(公財)福岡県産業・科学技術振興財団
7	オープンデータを活用したアプリケーション等の調査	総務省

※ 件名については、相手先との契約により詳細な内容(件名)を記述できないものが含まれており、同じ件名(概要件名)であっても異なる案件を示します。

(2) 共同研究・事業

複数の組織で進めた方が効果的な技術等について、企業、大学等と共同で以下の研究開発・事業を行いました。

No.	件名	共同研究相手先
1	有機ELパネルの評価	企業
2	太陽電池に製造プロセスに関する評価	企業
3	フレキシブル有機ELデバイスの封止技術の開発 →受託/共同研究・事業の実施事例2に記載 P15	企業
4	AR技術を用いたスポーツ/ヘルスケア支援システム	企業
5	照明用材料に関する検討	企業
6	生命分子の集合原理に基づく分子情報の科学研究ネットワーク拠点	九州大学 分子情報連携研究センター
7	フレキシブル有機ELデバイスに関する研究	九州大学 共進化社会システム創成拠点・ 情報デバイスユニット
8	有機薄膜内微小部位の非破壊劣化機構解析	九州大学、 (公財)福岡県産業・科学技術振興財団
9	有機半導体材料中の不純物解析	九州大学、企業 (公財)福岡県産業・科学技術振興財団
10	オープンデータ利活用プラットフォームに関する研究	企業
11	貴金属ナノ粒子の高機能化に関する研究	企業
12	フレキシブル有機ELデバイスの封止材料等に関する研究	(公財)福岡県産業・科学技術振興財団
13	有機ELデバイスの作製	(公財)福岡県産業・科学技術振興財団
14	有機ELパネルの試作と評価	(公財)福岡県産業・科学技術振興財団

※ 件名については、相手先との契約により詳細な内容(件名)を記述できないものが含まれており、類似の件名(概要件名)であっても異なる案件を示します。

【受託／共同研究・事業の実施事例 1】

件名	オープンデータに関する研修 企業からの受託事業（平成 30 年度）
内容	自治体でオープンデータを推進するリーダー（オープンデータリーダー）を育成する研修を総務省から受託（富士通株式会社からの再委託）し、研修用コンテンツを新規に開発し、6 都道府県でオープンデータリーダー育成研修を実施しました。

【受託／共同研究・事業の実施事例 2】

件名	フレキシブル有機 EL デバイスの封止技術の開発 企業との共同研究（平成 30 年度）
内容	フレキシブル有機光エレクトロニクスデバイス及びフレキシブル封止技術の作製プロセス、評価プロセスの研究開発を実施しました。

4. 研究成果の公表**（1）成果発表について**

研究開発に伴う成果については、論文投稿や学会・国際会議や研究会の場で、14 件の成果発表を行いました。

また、イベント・セミナー等で 27 件、書籍等で 2 件の発表を行いました。この他、セミナーやフェアでの展示・説明、さらにホームページや広報誌への掲載等を通じ、広く公表に努めました。

種別	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
論文	2 件	2 件	7 件
学会発表	6 件	2 件	7 件
国際会議	2 件	3 件	9 件
研究会	4 件	0 件	8 件

（2）知的財産について

平成 30 年度は、有機光デバイスに関する特許 1 件を出願（共同出願）しました。

	平成30年度	平成29年度	平成28年度
特許出願件数 (平成7～各年度末累計)	50件	49件	49件

II 産学官連携による新産業・新事業の創出支援事業

1. オープンイノベーション・ラボ（OIL）関連の活動

(1) 福岡市 IoT コンソーシアム（FITCO）

平成28年11月に、IoT関連の企業、大学等の団体及び個人が参加可能なオープンなコンソーシアムとして「福岡市IoTコンソーシアム」を設立し、データを活用した地域の課題解決の事例や知見を共有し、IoT関連分野における新製品・サービスの創出を促進することで、持続可能で多様な人々が参加できる社会の実現を目指しています。

【福岡市IoTコンソーシアムの概要】

(1) 主な活動：

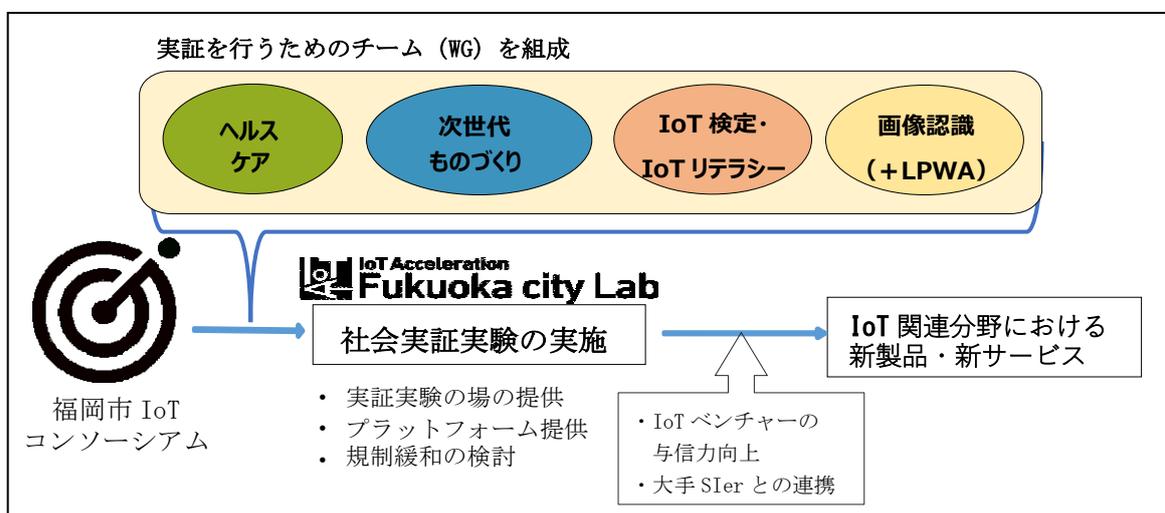
1. セミナー等によるIoT関連の最新技術情報や事例などの情報提供
2. IoTベンチャーや金融機関、SIerなど、組織間のマッチング支援
3. 福岡市IoT推進ラボの企画・運営

※経済産業省が進める「地方版IoT推進ラボ」として実施しています。

(2) 会員数（2019年3月末現在）：402団体/個人（企業会員 242社、個人会員 160名）

(3) 事務局：(公財)九州先端科学技術研究所、NPO法人QUEST、福岡市

(4) 活動図



平成30年度は、コンソーシアム会員からのアンケートを踏まえて、4つの新たなワーキンググループ（WG）：「次世代モノづくり」WG、「医療働き方改革（ヘルスケア）」WG、「IoT検定・IoTリテラシー」WG、「画像認識+LPWA」WGを組織し、社会実証実験に向けた活動、会員間での課題共有や解決へ向けた議論、最新技術の勉強会、企業・組織間でのマッチング活動を行いました。

また、AIやIoTの実装による地域課題の解決や新たなサービスの創出に向けて福岡市IoTコンソーシアム、福岡市、NPO法人QUEST、ISITの4組織等の共同で、平成31年2月15日に「第3回ふくおかAI・IoT祭り in SRP」を開催しました。

【WG活動】

「画像認識+LPWA」WGにおいて、地域企業と連携し LPガスメーター読取の実証実験を実施

【第3回ふくおかAI・IoT祭り in SRP】

大手ICTベンダー、国内ITベンダー、ITベンチャー各社が、AI・IoT・ビッグデータの最新活用事例や具体的なソリューションの展示・紹介や各種講演・セミナーを開催しました。

第3回ふくおかAI・IoT祭り in SRP “AI × IoT × データ資本主義”で「新しい福岡」を創造する!		参加者	490名
日時	平成31年2月15日 10:00~15:00	場所	福岡SRPセンタービル2F及び 1F SRP Open Innovation Lab
<p>【基調講演】 福岡のAIベンチャー企業が世界に向けて挑戦する「新しいAI & デジタル・ビジネス」の全容 九州大学名誉教授 株式会社チームAIBOD 取締役副社長 村上 和彰 氏</p> <p>【基調講演】 スタートアップとデータ・エコシステム 株式会社ABBALab 代表取締役 小笠原 治 氏 他各種講演・セミナー、展示・デモ等を実施</p>			

【マッチング活動】

平成30年度は、10件のマッチング相談に対して、適切な協業先の紹介、FITCOホームページへの掲載、関連するセミナーやイベントでの発表・展示等に関する支援等を実施し、事業化・製品化のためのマッチングを行いました。

表：平成30年度のマッチング実績

No	マッチング希望の分野・テーマ	マッチング希望のテーマや相手先の概要・要件等	対応内容
1	アプリ開発先の相談	福岡市内でアプリ開発可能な企業の紹介を希望	FITCO 会員企業を紹介
2	IoT(AI)、みちびき対応 GNSS	自社製品・サービスを提供したい。	パートナー企業を募集するため、スタートアップセレクション(イベント)への登壇を支援
3	自社アプリについて、これまでユーザビリティを考慮しておらず、UIの重要性を感じている。	技術的に優れているが、物が売れない・浸透しないといったケースが多く、これを改善したい。娯楽性のあるシステムを導入することで、継続的なデータ収集が可能とする。	娯楽性のある企画案、仕様、UIの提供可能なパートナー企業を募集するため、スタートアップセレクション(イベント)への登壇を支援
4	アクセス(入退室)管理ソリューションの他、防災テーマの技術マッチング	・マンション・不動産事業者 ・レンタルスペース事業者、シェアリングオフィス事業者、トランクルーム事業者、収納スペース事業者 ・宿泊施設(民泊、ホテル)事業者 ・オフィスビルの入室管理事業者とのマッチングを希望	・FITCO Web ページに製品情報を掲載 ・セミナー開催を支援 ・イベント展示を支援
5	人材獲得、人材育成など「人材」に関する分野	人材獲得・人材育成等を、他の企業と共同で実施することで各社の強みをプラスさせ、人材との接点を最大化・最適化したい。	・FITCO Web ページに製品情報を掲載 ・セミナー開催を支援 ・イベント展示を支援 ・FITCO 会員企業を紹介
6	各種 IoT 装置の開発と提供	機械学習、ディープラーニング、カメラによる人物認識等の技術を用いた製品開発	・製品開発に関する技術相談や補助金等の紹介 ・FITCO 会員企業を紹介
7	観光、介護、農業、防災、センサ応用、画像処理、ドローンに関する製品・サービス開発	・FPGA 設計、ソフト設計サービス ・Raspberry Pi やスマートフォンを活用し、センサのデータ処理や画像処理技術を使い様々なアプリケーションの開発 ・地図データ上に様々な情報をマッピングするシステムの開発(観光協会、自治体など) ・ドローン活用した新規ビジネス等を目指している。関連企業とのマッチングを希望	・FITCO Web ページに製品情報を掲載 ・セミナー開催を支援 ・イベント展示を支援 ・FITCO 会員企業を紹介 ・SRP-OIL 水曜セミナーや AI・IoT 祭りへの登壇

8	企業におけるデータの利活用やデータサイエンティストの雇用創出に対する取り組み強化	<ul style="list-style-type: none"> データの利活用を推進する企業に対する分析業務の受託 企業研修等のサービスを提供 学校法人と連携したデータサイエンティスト体験プログラムやキャリア講演会等を希望 	<ul style="list-style-type: none"> FITCO Web ページに製品情報を掲載 セミナー開催を支援 イベント展示を支援
9	不動産における AI、VR/AR/MR の利活用	<ul style="list-style-type: none"> 土地面積や形状、周辺環境に応じて建物配置等を最適化する AI システムや顧客傾向に応じた営業支援を行う AI システム AR/VR/MR を活用した解析、販売促進手法の実現を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> FITCO Web ページに製品情報を掲載 セミナー開催を支援 イベント展示を支援 セミナーにおいてスマートハウス導入事例紹介を実施
10	企業及び教育機関（大学等）向けの IoT に関するシステム提案	<p>温湿度センサを各種の電波（LPWA, Bluetooth, WiFi 等）を利用してクラウド側で管理するアプリケーションを提供している。同様のアプリケーションの開発を行っている企業との協業を希望。また、センシングで収集したデータを利用して AI 分析を行い効率化や改善を提案することも行いたい、AI 分析等を得意とする企業とのマッチングを希望。</p>	製品開発に関する技術相談や補助金等の紹介

(2) エンジニアフレンドリーシティ福岡事業

エンジニアと福岡市が協力し、エンジニアが福岡市に集まり、活躍、成長する街、エンジニアが福岡市で働きたいと思うような街づくりを目指す取組みとして、平成 30 年 8 月より福岡市と共同でエンジニアフレンドリーシティ福岡（EFC）事業を実施しました。

① キックオフイベント

EFC のキックオフイベントを平成 30 年 8 月 20 日、Fukuoka Growth Next にて開催しました。（参加者 250 名超）

- ・市長スピーチ、エンジニアフレンドリーシティ宣言
- ・地元エンジニアや企業からのメッセージ
- ・講演、トークセッション、コミュニティによる活動 PR



② EFC Web サイト開設

キックオフイベントに合わせ、EFC の Web サイトを開設し、以下のコンテンツを公開しました。

【エンジニアへのインタビュー】

福岡で活躍するエンジニアにインタビューを実施。平成 30 年度は 6 名を紹介。

【エンジニアコミュニティの紹介】

福岡で活動するエンジニアのコミュニティの紹介を行いました。現在 30 コミュニティの登録。

【技術セミナーやスキルアップ研修会等関連行事の紹介】

EFC の Web サイトで、福岡で開催される技術セミナーやスキルアップ研修会等の情報を紹介。（サイト URL：<https://efc.isit.or.jp/>）

③ OSS Gate Fukuoka（ワークショップ）

オープンソースソフトウェア（OSS）に関わるプログラマー（エンジニア）を拡大することを目指した取組みとして、「オープンソースソフトウェア（OSS）の開発に参加する」を実際に体験するワークショップを、「平成 31 年 1 月 15 日・17 日（参加者 30 名）」、「平成 31 年 3 月 11 日・12 日（参加者 9 名）」の 2 回開催しました。

第1回 OSS Gate Fukuoka (ワークショップ)		参加者	30名
日時・場所	平成31年1月15日 19:00~21:30 平成31年1月15日 19:00~21:30	G' s BASE (株)ヌーラボ セミナールーム	
第2回 OSS Gate Fukuoka (ワークショップ)		参加者	9名
日時・場所	平成31年3月11日 19:00~21:30 平成31年3月12日 19:00~21:30	GMO ペパボ(株) G' s BASE	

2. マテリアルズ・オープン・ラボ（MOL）／産学官共創推進室関連の活動

（1）有機光エレクトロニクス研究開発拠点の形成の推進

九州大学共進化社会システム創成拠点（九州大学 COI 拠点）に参画するとともに、九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター（OPERA）や有機光エレクトロニクス実用化開発センター（i3-OPERA）等と連携し、有機光エレクトロニクス研究開発拠点形成を推進しました。

本取り組みに関連して、平成 30 年度は、福岡県、福岡市、ふくおか IST と共催で、第 12 回、第 13 回有機エレクトロニクス産業化研究会を開催しました。

■有機エレクトロニクス産業化研究会

第 12 回有機エレクトロニクス産業化研究会			参加者	75 名
日時	平成 30 年 6 月 7 日 13：30～16：50	場所	ハイアットリージェンシー福岡	
テーマ：OLED 技術における産学官連携 講演 (1) 「CEREBA における有機 EL 分野での産学連携」 次世代化学材料評価技術研究組合（CEREBA） 研究部 有機 EL グループ GM 棚村 満 氏 (2) 「コニカミノルタにおける産学連携の取組について」 コニカミノルタ株式会社 技術フェロー 北 弘志 氏 (3) 「有機エレクトロニクスイノベーションセンターにおける産学連携の取り組み」 山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター センター長代理 仲田 仁 氏				

第 13 回有機エレクトロニクス産業化研究会			参加者	89 名
日時	平成 30 年 11 月 30 日 13：30～16：50	場所	西鉄グランドホテル	
テーマ：次世代ディスプレイ技術 講演 (1) 「スマートグラス MOVERIO の光学系と Si-OLED パネル技術紹介」 セイコーエプソン株式会社 技術開発本部 コアデバイス技術開発部 山本 英利 氏 (2) 「光線再生型 3 次元映像表示技術」 NHK 放送技術研究所 空間表現メディア研究部 佐々木 久幸 氏 (3) -MicroLED- The Ultimate Display Technology PlayNitride Inc. Marketing Director Mr. Falcon Liu				

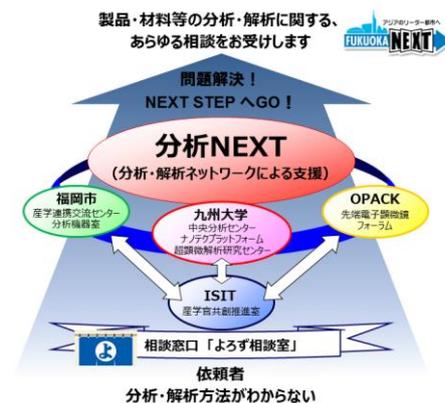
（2）分析・解析よろず相談事業 「分析 NEXT」

福岡市、九州大学、（公財）九州大学学術研究都市推進機構との 4 者で連携し、企業や大学等の製品・材料等の分析・解析に関する課題の解決を支援する相談窓口を開設し、産業界（大手企業から中小企業まで）の支援を行っています。

平成 30 年度は、57 企業・大学等から、162 件の分析・解析よろず相談がありました。

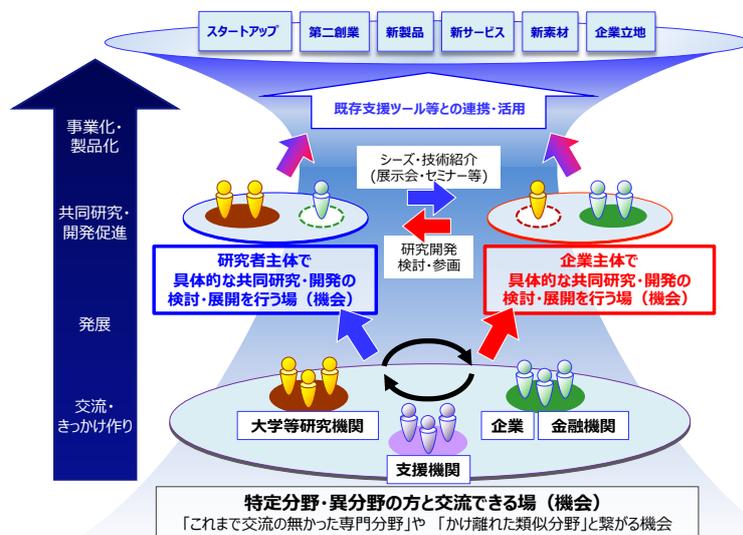
また、現在、下記 12 件が改良・実用化支援中の案件で、このうち(ア)については、当研究所との共同研究に進展しています。

- (ア) 照明器具現製品の改良
- (イ) 農業用資材の洗浄剤について
- (ウ) 製品製造中に出る沈殿物について
- (エ) 金属製品の分析
- (オ) 動物忌避剤の安全性担保に関する相談
- (カ) 殺菌装置の開発に関する相談
- (キ) 道路ジョイント部に対する新規補修材について
- (ク) 発達障害児向けの教育指導法の証左となる分析解析法について
- (ケ) 金属部品の変色原因の特定と改善策の検討
- (コ) 製造品の不具合原因について
- (サ) 食品の新商品開発に向けた課題相談
- (シ) 新規材料の組成解析に関する相談



(3) 地方発イノベーション創出環境の構築事業

地方発イノベーション創出環境の構築を目的とし、分析ネットワークの機能の充実、企業の課題・ニーズと大学・研究機関が有するシーズとのマッチングの場としての産学官金ネットワーク形成、産学連携支援人材の育成を推進しています。



平成 30 年度は、下記の事業を実施しました。

① ネットワーク拡大に向けた活動

研究・開発型のスタートアップや中小・中堅企業、大学等研究機関、金融機関、産業支援機関などの様々な主体が、組織や業種の垣根を越えて交流・連携できる場（環境）をつくり、その場から多くの交流・連携活動が自律的に生まれることを支援する活動を効果的に行うため、その推進体制の充実及び各種活動を行いました。

1. 専門的知識・経験を有する人材等を配置した推進体制の充実
2. 県内、九州・山口地域の高度な分析機器・技術を有する機関との連携の広域化
3. 展示会等への出展（モノづくりフェア 2018）
4. その他ネットワーク構築に向けた活動
 - ・サイエンスカフェの開催（FiaS Monthly Café の定期開催・協力）
 - ・金融機関との連携協定締結
 - ・よろず相談「分析 NEXT」に関わる視察対応
 - ・よろず相談「分析 NEXT」の事業紹介・支援活動を介したネットワーク拡大の取組み
 - ・先端技術に関わるネットワーク形成活動

② 企業ニーズ・大学等シーズの収集活動

企業等の抱えるニーズや、大学等研究機関の有する有望な研究成果・技術について情報を収集し、産学官金の連携・ネットワーク活動に活用するため、下記の活動を行いました。

1. 企業ニーズ、大学・研究機関等シーズの収集活動
 - ・大学等研究機関主催のワークショップへの協力
 - ・九大-理研-福岡市・ISIT 三者連携シンポジウムの開催
 - ・出張よろず相談会の開催
 - ・九州大学等の最新の研究・技術シーズ情報等の収集
 - ・よろず相談対応に活用する事を目的とした専門分野における最新情報
2. 企業の潜在的課題や分析ニーズの掘り起こし
 - ・よろず相談「分析 NEXT」における相談対応

③ 産学官金ネットワーク形成

地域発のイノベーションが自律的に連続して創出される環境を構築することを目指し、産学官及び金融機関も加えた連携・ネットワーク・場の形成と、その場から新たな研究開発の連携とイノベーションを生み出していく支援をするため、下記の活動を行いました。

1. フォーラム（全体会議）等の開催
 - ・九大-理研-福岡市・ISIT 三者連携フォーラムの開催
2. セミナー等の開催
 - ・有望な技術等に係わるセミナー・シンポジウムの開催
 - ・第2回洗浄技術セミナーの開催
 - ・第3回洗浄技術セミナーの開催
3. 分野別ワーキンググループ等の開催
 - ・ふくおか産学共創コンソーシアム部会の設立
4. ふくおか産学共創コンソーシアムによる支援・連携活動等
 - ・ふくおか産学共創コンソーシアムの運営に関わる活動
 - ・研究者等と企業等のマッチング支援
 - ・分析化学講習会開催および実習における協力
 - ・九州大学の講義における技術講習会・実習への協力
 - ・理化学研究所・九州大学・福岡市との連携協議
 - ・産学連携の市民理解促進に向けた活動
 - ・競争的資金・助成金等の国の施策調査

【セミナー等の開催実績】

開催日	講演題目・講師	場所	参加者
平成 30 年 6 月 28 日	第 2 回洗浄技術セミナー： 洗浄とは何か？ 化学の観点から産業洗浄技術を考える 講師：ISIT 産学官共創推進室 石川 誠 特別研究員 備考：第 1 回内容にて企業内セミナー開催依頼があり実施	県内企業	48 名

平成 30 年 10 月 19 日	第 3 回洗浄技術セミナー： 超微量成分分析の観点から洗浄技術について考える 講師：九州大学アイソトープ統合安全管理センター 名誉教授 吉村 和久 氏	マリンメッセ福岡 セミナー会場 B	62 名
----------------------	--	----------------------	------

【フォーラム・シンポジウムの開催実績】

九大-理研-福岡市・ISIT 三者連携シンポジウム 数理・AI が解く未来 ～計算科学の展開と期待～			参加者	216 名
日時	平成 30 年 5 月 15 日 13:00～17:45	場所	九州大学伊都キャンパス I ² CNER ホール	
プログラム概要				
<p>【基調講演】</p> <p>創薬における数理・AI 活用の現状と将来ビジョン 山崎 一人 氏 (大日本住友製薬株式会社 インシリコ創薬シニアフェロー) 数理学で飛躍する 初田 哲男 氏 (理化学研究所 数理創造プログラム プログラムディレクター)</p>				
<p>【セッション 1】</p> <p>AI+グラフ解析+数理最適化による新しい産業応用 藤澤 克樹 氏 (九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所・教授) データ同化：シミュレーションと実測データを融合するデータサイエンス 三好 建正 氏 (理化学研究所 計算科学研究センター データ同化研究チーム チームリーダー)</p>				
<p>【セッション 2】</p> <p>AI 創薬：薬効や副作用を予測するデータ駆動型アプローチ 山西 芳裕 氏 (九州大学生体防御医学研究所 附属トランスオミクス医学研究センター 准教授) シミュレーションと AI の融合による創薬 本間 光貴 氏 (理化学研究所 計算科学研究センター データ同化研究チーム チームリーダー)</p>				
<p>【パネルディスカッション】</p> <p>テーマ：ビッグデータに基づく数理・AI 活用の可能性を探る</p>				

九大-理研-福岡市・ISIT 三者連携フォーラム データ×サイエンス×ビジネス ～AI・デジタルで社会を変える～			参加者	272 名
日時	平成 31 年 3 月 6 日 13:45～17:20	場所	ハイアットリージェンシー福岡 ボールルーム	
プログラム概要				
<p>【講演 1】ピンチはチャンス！～山口の山奥の小さな酒蔵だからこそできたもの～ 桜井 博志 氏 (旭酒造(株) 会長)</p> <p>【講演 2】実店舗小売企業のデジタルトランスフォーメーション挑戦事例 西川 晋二 氏 ((株)トライアルホールディングス 取締役副会長)</p>				
<p>【取組紹介 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホ決済システム「YOKA!Pay」を利用したデータ活用 北島 美喜 氏 ((株)福岡銀行 デジタル戦略部 サービスイノベーション推進室 調査役) ・西日本 FH におけるデータの利活用について 尼田 雅典 氏 ((株)西日本フィナンシャルホールディングス グループ戦略部 主任調査役) 				
<p>【講演 3】異業種との事業連携と ICT・AI の活用で次世代の公共交通を創る 阿部 政貴 氏 (西日本鉄道(株) 自動車事業本部 計画部計画課長)</p> <p>【講演 4】オープンサイエンス & オープンエデュケーション with オープンマインド： 九州大学におけるデータサイエンス教育 内田 誠一 氏 (九州大学システム情報科学研究院 主幹教授)</p> <p>【講演 5】イノベーション加速時代の未来戦略 高橋 恒一 氏 (理化学研究所 生命機能科学研究センター チームリーダー)</p>				

【取組紹介 2】

- ・ 理化学研究所の取組紹介
吉田 茂美 氏（理化学研究所 イノベーション事業本部共同研究促進部 部長）
- ・ ふくおか産学共創コンソーシアムの取組紹介
川畑 明 室長（ISIT 産学官共創推進室）

（4）その他

① 国際ナノテクノロジー総合展（nano tech 2019）出展

平成 31 年 1 月 30 日～2 月 1 日に開催されたナノテクノロジーに関する世界最大の展示会である第 18 回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議（nano tech 2019、出展者：481 社・団体）に、（公財）九州大学学術研究都市推進機構、九州大学 学術研究・産学官連携本部、九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター、株式会社 Kyulux、有機光エレクトロニクス実用化開発センターと共同で出展しました。

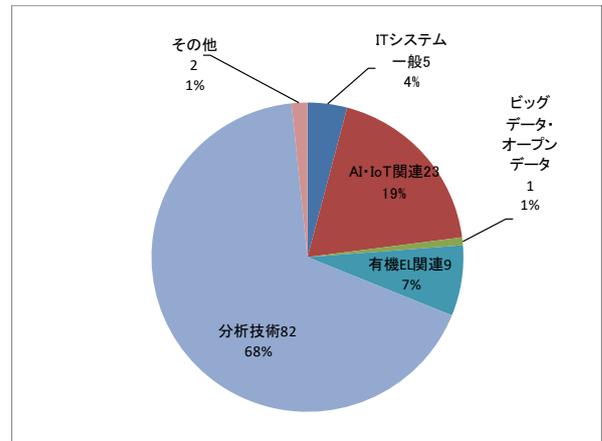
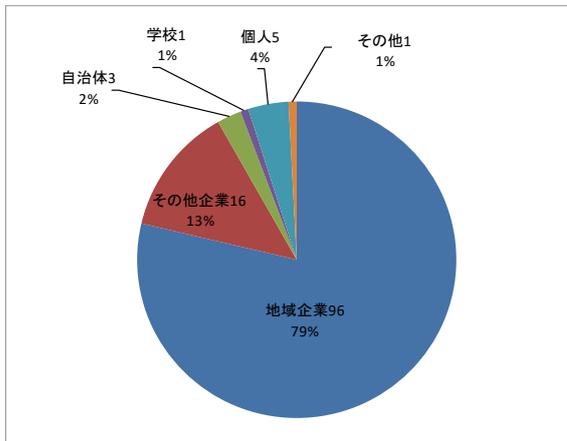
Ⅲ コンサルティング事業

福岡市内を中心とした九州地域の企業等が、システム技術・情報技術やナノテクノロジーをはじめとする先端科学技術分野において、独自では解決困難な研究開発、製品開発等に関する技術的諸問題の解決支援を目的としています。

また、福岡市・九州大学・（公財）九州大学学術研究都市推進機構との連携による産業界へのサポート事業として、製品・材料等の分析・解析に関する課題の解決を支援する「分析 NEXT (32 ページ参照)」に中核機関として参画し、コンサルティングを実施しています。

平成 30 年度は 122 件の相談（窓口相談）を受け、3 件が公募提案（企業提案 2、ISIT 提案 1）、1 件が共同研究、7 件が有料コンサルティングへ進展しました。

相談元別内訳		相談内容別内訳	
地域企業（九州内）	96 件	IT システム一般	5 件
その他企業	16 件	AI・IoT 関連	23 件
自治体	3 件	ビッグデータ・オープンデータ関連	1 件
学校	1 件	有機 EL 関連	9 件
個人	5 件	分析・技術（分析 NEXT）関連	82 件
その他	1 件	その他	2 件



IV 情報収集・提供事業

先端的な技術等に関する情報を収集し、地域企業の技術力の向上に資する情報を提供するとともに、広報活動を行いました。

1. ISIT 市民講演会

当研究所が行う研究開発事業のうち、市民の関心が高く、身近なテーマを選び、講演会やセミナーを開催しています。

平成30年度は、「幼児・児童のための防犯」をテーマに、地域の企業と ISIT が取り組む新技術の活用例の紹介も交えながら、下記のとおり開催いたしました。

開催日時	講演題目・講師	場所	参加者
平成30年 11月9日 10:00 ～ 12:30	テーマ：「子どもたちを不審者から守ろう！」 ～人とIoTとで安全安心な通学を～ 【講演】子どもたちを守るために、今何を 講師：福岡県安全安心まちづくりアドバイザー 金子 昌隆 氏 【事例紹介】学校と家庭とIoT ～“ツイタもん”でむすぶ地域見守り 講師：株式会社シティアスコム 営業本部・営業企画部・地域共生推進室 實藤 謡子 氏 【事例紹介】地域とともにつくる新しい見守りサービス 「Qottaby (キューオッタバイ)」 講師：九州電力株式会社 コーポレート戦略部門・インキュベーションラボ 山根 一高 氏 【ISIT 活動紹介】交通事故のホットスポットはどこだ！？ ・ISIT が福岡県警の数万件に上る交通事故データを分析 ・マップを見れば、身近にあるホットスポットが一目でわかる ・自宅の近くは安全なの？学校の周りはどう？ ・友だちの家までどこを通過して行けばいいの？ 公益財団法人九州先端科学技術研究所 (ISIT) オープンイノベーション・ラボ 東 富彦 イノベーション・アーキテクト 【SRP Open Innovation Lab のご紹介 (見学会)】	福岡 SRP センター ビル2階 視聴覚 研修室	33名

2. Web 等による情報発信・提供

(1) ホームページによる情報発信 (23 件)

イベント情報 9 件、プレスリリース 5 件、その他お知らせ等 9 件

(2) メールマガジンによる情報提供 (98 件)

3. 活動報告の定期発行

(1) 活動報告書 (年 1 回発行)

(2) 活動レポート「What IS IT?」 (年 2 回発行)

2018 vol. 88 秋・冬号 SRP Open Innovation Lab 開設から半年で来場 1000 名突破

2018 vol. 87 春・夏号 ISIT が新しく変わりました

V 人材育成事業

地域の先端科学技術関連人材の研究開発力向上のための技術セミナーを開催するとともに、企業・大学や海外からの技術者等を受け入れ、人材を育成する活動を行っています。

1. ISIT 技術セミナー

企業等の技術者向けに最新の技術情報に関するセミナーを開催しています。

平成 30 年度は、IT 分野に関しては「第 3 回 ふくおか AI・IoT 祭り in SRP」(平成 31 年 2 月 15 日開催)における各種講演及びセミナー、SRP Open Innovation Lab におけるセミナーやハンズオン、「オープンソースカンファレンス 2018 福岡」(平成 30 年 12 月 8 日開催)におけるセミナー等を開催しました。また、ナノ・材料分野に関しては、第 2 回、第 3 回洗浄技術セミナーを開催しました。

(1) 第 3 回 ふくおか AI・IoT 祭り in SRP における講演及びセミナー等

各会場のプログラムご紹介

SRPホール (奥側) 「AI × IoT × データ資本主義」で「新しい福岡」を創造する!	
10:10 - 11:10	【基調講演】 福岡のAIベンチャー企業が世界に向けて挑戦する「新しいAI & デジタル・ビジネス」の全容 九州大学名誉教授(株)チームAIBOD 取締役副社長 村上 和彰 氏
11:10 - 11:50	【講演】 ソフトバンクのIoT戦略 -IoTデバイスからクラウド・AI・セキュリティ事業へ- ソフトバンク(株) IoT事業推進本部 神谷 義孝 氏
12:30 - 13:10	【講演】 Alibaba CloudによるAIビッグデータプロダクト導入事例のご紹介 SBクラウド(株) 技術部ソリューションアーキテクト 森 彬 氏(キエウ ヒンビン)氏
13:20 - 14:00	【講演】 日本発の宇宙データプラットフォームTellusの目指す世界 xData Alliance さくらインターネット(株) 田中 康平 氏
14:10 - 15:10	【基調講演】 スタートアップとデータ・エコシステム (株)ABBALab 代表取締役 小笠原 治 氏
15:20 - 16:00	【講演】 AIは何から学ぶ? データの重要性と価値 LINE Fukuoka(株) 立石 賢吾 氏
16:10 - 16:50	【講演】 ZOZO研究所における情報資産の活用について (株)ZOZOテクノロジーズ ZOZO研究所 福岡 General Manager 達 浩 人 氏
視聴覚研修室	
福岡市主催	
10:30 - 11:30	【講演】 福岡市のSociety5.0へのチャレンジ 福岡市 総務企画局 企画調整部 Society5.0担当 企画係長 船永 麻子 氏 Fukuoka AI Community 会員企業による事例紹介 クラウドエース(株)事業推進本部 第一営業部 福岡支社 牛神 友介 氏 (株)NTTデータ九州 AI&IoT事業部 鍋谷 祐一 氏
11:35 - 12:05	【講演】 キャッシュレスFUKUOKAの取り組みについて 福岡市 経済観光文化局 中小企業振興部 経営支援課長 西 依 正博 氏
12:10 - 12:55	【講演】 (1)Fukuoka City LoRaWAN™セミナー「Fukuoka City LoRaWAN™の取り組み」 福岡市 経済観光文化局 創業・立地推進部 新産業振興課長 柳 浩一 氏 (2)Fukuoka City LoRaWAN™を支える技術とAI/IoTを活用した社会課題解決 西日本電信電話(株) アライアンス営業本部 ビジネスデザイン部 IoTビジネス部門 ビジネス開発担当 奥島 啓介 氏
13:00 - 13:30	【講演】 ソニーのLPWA ELTRES の紹介と活用事例 ソニーセミコンダクタソリューションズ(株) コネクテッドサービス事業室 室長 井田 亮太 氏
13:35 - 14:05	【講演】 「ZETA」の概要と活用事例のご紹介 (株)Qinet サービス開発部 開発推進グループ 主任 IoT・AI推進室 吉村 拓也 氏
FITCO主催	
14:10 - 14:50	【講演】 九州発AI・IoTの取組み 富士通九州ネットワークソリューションズ(株) 開発戦略本部 第二統括部 第一開発部 部長 倉成 真一 氏
15:00 - 17:00	【講演】 FITCO会員によるIoT導入事例・企業紹介 新しい技術で社会問題を解決する (株)リンクジャパン 田川 貴光 氏
15:20 - 15:40	【講演】 IoTソリューションテンプレートと導入事例のご紹介 コネクシオ(株) 長山 豊 氏
15:40 - 16:00	【講演】 今日から始めるIoT...ICタグを使ってみよう! 日精(株)/(株)ハヤト・インフォメーション 大坂 泰弘 氏
16:00 - 16:20	【講演】 空間をマネジメントするIoT技術と活用事例のご紹介 (株)構造計画研究所 エンジニアリング営業2部 鄭恩 楸(チョンウギョ) 氏
16:20 - 16:40	【講演】 さくらのIoTプラットフォームと採用事例 さくらインターネット(株) 技術本部 IoTチーム 西田 有騎 氏
16:40 - 17:00	【講演】 最新IoT/AR活用事例 PTCジャパン(株) 山本 和良 氏

研修室 1	
(一社)DELIA、NPO法人QUEST主催	
10:30 - 13:30	【講演】 ブロックチェーンとエネルギー・トークンエコノミー ローカルVPPトークンエコノミーを牽引するブロックチェーン技術、その解説と実証 ～国土強靱化と再エネの経済的自立の新たな関係～ (一社)DELIA 代表/(株)スマートエナジー研究所 中村 良通 氏
11:20 - 12:10	【講演】 ブロックチェーンの課題と未来 慶應義塾大学SFC研究所 上席所員/(株)ブロックチェーンハブ CSO 斉藤 賢爾 氏
12:20 - 13:10	【講演】 ブロックチェーンとエネルギー (株)chaintope 代表取締役社長 正田 英樹 氏
13:10 - 13:25	【講演】 ブロックチェーン技術を用いた電力需要調整サービス (株)日新システムズ ソーシャル・ソリューション事業部 事業部長 小松 重夫 氏
Code for Fukuoka主催	
13:45 - 16:30	【講演】 パネルディスカッション シビックテックシンポジウム ～九州でつながるシビックテック～ 13:50 - 14:35 【招待講演】 つながりを科学する「地域コミュニティブランド」 宗城大学 教授 量 隆成 氏
14:45 - 15:20	【講演】 九州におけるシビックテック活動紹介 福岡 : Code for Fukuoka/(株)シティアスコム 徳永 美紗 氏 佐賀 : Code for Saga/(株)ローカルメディアラボ 牛島 清彦 氏 長崎 : Code for Nagasaki/(株)九州地域情報化研究所 横山 正人 氏 熊本 : 熊本学運大学 教授 橋 幸 氏 大分 : Code for Oita/公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 足立 郁 氏 宮崎 : 宮崎県 総合政策部 情報政策課 西本 謙一 郎 氏 鹿児島 : 肝付町役場 福祉課 中塚 信 氏
15:35 - 16:25	【パネルディスカッション】 持続可能な地域コミュニティの実現に向けて 司会 : Code for Fukuoka/(株)シティアスコム 徳永 美紗 氏、パネリスト : 上記、シビックテック実践家の皆様
研修室 2	
Joint-IFF主催	
10:00 - 12:00, 13:00 - 15:00	【セミナー・ワークショップ】 ビジネスモデルに活かすためのAIとの共創を目指す発明思考(アイデア発想支援) 知的財産総合事務所 NEXTPAT 代表 兼 理事 羽立 幸司 氏
FITCO主催	
15:10 - 16:40	企業としてのデータサイエンスの取り組み方 (株)データフォーシズ 執行役員/(株)D4cアカデミー 取締役 社長 兼 学長 和田 陽一 郎 氏 (株)データフォーシズ 人事採用マネージャー/(株)D4cアカデミー 運営 Director 山本 晋平 氏
SRP Open Innovation Lab (SRPセンタービル 1階)	
もち浜TECHカフェ主催	
15:00 - 17:00	【ハンズオンセミナー】 KH Coderではじめるテキストマイニング入門 NOB DATA(株) 代表取締役 大城 健児 氏 ※上記以外の時間帯(10:00-15:00)は、終日開放しています。(スタッフが常駐しています) ・ランチ開放 ・書籍コーナー ・AIソリューション等展示 ・LoRaWAN™展示



表：第 3 回ふくおか AI・IoT祭り in SRP における講演及びセミナー等

セミナー (講演) 件名	講演者	参加者
福岡のAIベンチャー企業が世界に向けて挑戦する「新しいAI & デジタル・ビジネス」の全容	九州大学名誉教授/(株)チームAIBOD 取締役副社長 村上 和彰 氏	83名
ソフトバンクのIoT戦略 -IoTデバイスからクラウド・AI・セキュリティ事業へ-	ソフトバンク(株) IoT事業推進本部 神谷 義孝 氏	75名

Alibaba CloudによるAIビッグデータプロダクト導入事例	SBクラウド(株) 技術部 ソリューションアーキテクト 裘 彬浜 氏	32名
日本発の宇宙データプラットフォームTellusの目指す世界	xData Alliance さくらインターネット(株)田中 康平 氏	35名
スタートアップとデータ・エコシステム	(株)ABBALab代表取締役 小笠原 治 氏	52名
AIは何から学ぶ?データの重要性と価値	LINE Fukuoka(株) 立石 賢吾 氏	70名
ZOZO研究所における情報資産の活用について	(株)ZOZOテクノロジー ZZOZ研究所 進 浩人 氏	53名
福岡市の取組み(福岡市のSociety5.0へのチャレンジ、キャッシュレス福岡の取組み、Fukuoka City LoRaWANの取組み、他のLPWAの紹介)	福岡市(企画調整部、新産業振興課、経営支援課)	32名
FITCOの取組み	FITCO会員企業	35名
ブロックチェーンとエネルギー・トークンエコノミー	一般社団法人DELIA、NPO法人QUEST主催	57名
シビックテックシンポジウム〜九州でつながるシビックテック	Code for Fukuoka主催	35名
ビジネスモデルに活かすためのAIとの共創を目指す発明思考	Joint-IFF主催 知的財産総合事務所 NEXTPAT 羽立 幸司 氏	7名
KH Coderではじめるテキストマイニング入門	ももち浜TECHカフェ主催	13名

(2) SRP Open Innovation Lab におけるセミナー等

SRP Open Innovation Lab において各種セミナーや講演等を実施しました。平成 30 年度は、35 回開催(7 月以降「SRP-OIL 水曜セミナー」として 30 回開催)し、延べ参加者数は 390 名でした。分野毎の主な開催事例を以下に示します。

表：平成 30 年度 SRP Open Innovation Lab におけるセミナー等(抜粋)

開催日	イベント名	内容	分野	参加者
平成 30 年 4 月 23 日	言葉を理解する人工知能がビジネスに与えるインパクト	人工知能に関する基礎知識の解説。質問応答人工知能「ロアンナ」の開発を通して見えてきた「人工知能が人の言葉を理解するということはどういうことなのか?」「人工知能が言葉を理解できると何がかわるのか?」を紹介	AI	18 名
平成 30 年 5 月 11 日	HTML を書くだけで誰でも簡単! A-Frame ではじめる Web AR/VR	AR/VR についての基礎解説及び A-Frame を用いて VR コンテンツを作るための基本手順、外部ライブラリを組み合わせた AR コンテンツの作り方までをハンズオン解説	AR/VR	8 名
平成 30 年 9 月 5 日	(6)CKAN 入門&CKAN API ワークショップ	CKAN 概要のセミナーと、実際に CKAN API を用いてオープンデータを取得するワークショップ	オープンデータ	7 名
平成 30 年 10 月 17 日	(12)オープンデータを使ったモバイルアプリ開発入門	オープンデータを使ったモバイルアプリ開発のハンズオン(EXPO を活用)	IT/オープンデータ	10 名
平成 31 年 1 月 17 日	(21)IoT 振動センサ技術セミナー	(FITCO 次世代モノづくり WG 特別企画) IoT 入力デバイスとして注目されている振動センサでの振動測定の基礎を理解する。 (ISIT オープンスペースで開催)	IoT	15 名

平成 31 年 3 月 27 日	(30) 福岡市のデータを分析してみよう！ (Excel と GIS 編)	福岡市が公開している人口データを使って、市の各地域における人口動向を分析します。ツールとして、Excel 関数、GIS(地理情報システム)を使用	AI/オープンデータ	10 名
---------------------	---------------------------------------	--	------------	------

(3) オープンソースカンファレンス 2018 福岡におけるセミナー

内外関係機関との交流及び協力事業における「オープンソースカンファレンス 2018 福岡」(平成 30 年 12 月 8 日開催)の中で、下記のセミナーを ISIT にて開催しました。

表：オープンソースカンファレンス 2018 福岡におけるセミナー開催実績

セミナー(講演)件名	講師	参加者
AI画像解析API、4社のコードを比較してみる	ISIT 徳賀 進哉	11名
オープンデータをAPIで使ってみよう！	ISIT 坂本 好夫	8名
オープンデータを使ったモバイルアプリ開発講座(入門編)	ISIT 後藤 孝行	9名
オープンデータを使ったモバイルアプリ開発講座(応用編)	ISIT 後藤 孝行	8名
オープンソースで始めるAR/VR開発	ISIT 吉永 崇	13名

(4) 洗浄技術セミナー

地方発イノベーション創出環境の構築事業の中で、平成 30 年度は、第 2 回、第 3 回洗浄技術セミナーを開催しました。

表：洗浄技術セミナーの開催実績

開催日	講演題目・講師	場所	参加者
平成 30 年 6 月 28 日	第 2 回洗浄技術セミナー： 洗浄とは何か？ 化学の観点から産業洗浄技術を考える 講師：ISIT 産学官共創推進室 石川 誠 特別研究員 備考：依頼を受けて実施(第 1 回の内容)	県内企業	48 名
平成 30 年 10 月 19 日	第 3 回洗浄技術セミナー： 超微量成分分析の観点から洗浄技術について考える 講師：九州大学アイソトープ統合安全管理センター 名誉教授 吉村 和久 氏	マリンメッセ福岡 セミナー会場 B	62 名

2. 高度人材の育成支援

(1) 九州大学分子システムデバイス国際リーダー教育センターとの連携

国立大学法人九州大学分子システムデバイス国際リーダー教育センターとの連携に関する協定に基づき、平成 30 年度は、博士課程教育リーディングプログラム 分子システムデバイスコースの教育プログラム実施のための協力を行いました。

開催日	教育カリキュラム名等	講師等	場所
平成 30 年 11 月 22 日	博士課程教育リーディングプログラム 分子システムデバイスコース 分析概論	産学官共創推進室 川畑 明	福岡市産学連携交流 センター

平成 30 年 11 月 22 日	博士課程教育リーディングプログラム 分子システムデバイスコース 課題解決型分析演習	マテリアルズ・オープン・ラボ 吉原 大輔 ナノ材料グループ 王 胖胖、一丸 恵子	福岡市産学連携交流 センター
----------------------	---	---	-------------------

(2) インターンシップによる人材育成

大学・大学院の学生を一定期間受け入れるインターンシップによる人材育成を実施しています。また、平成 22 年度から九州経済連合会（情報通信委員会）の「先導的 ICT 人材育成施策」との連携を行っております。

平成 30 年度は、同制度を利用して福岡工業大学から大学院生 1 名を受け入れました。（実習内容：AI を用いたデータ分析）。

3. その他

体験実験教室の開催や施設設備見学の受け入れにより、児童生徒向けサイエンス教育に寄与する活動を行いました。

(1) 小中学生向け夏休み体験実験

開催日	場所	参加者	主催等	内容
平成 30 年 8 月 4 日	福岡市産学連携 交流センター	公募による小中学生 及び保護者 24 組	共同主催：九州大学未来化学創 造センター、福岡市産学連携交 流センター、ISIT	電子顕微鏡 観察体験等

(2) 生徒等の見学受け入れ

開催日	場所	来訪者	内容
平成 30 年 7 月 24 日	九州大学伊都キャン パス	Eindhoven Univ Tech (オランダ・アイントホーフェ ン工科大学) 学生 28 名、Meijer 教授 計 29 名	ISIT の活動紹介
平成 30 年 8 月 4 日	福岡市産学連携 交流センター	宮崎県・私立中高一貫校 (生徒 16 名、引率教員 1 名)	ISIT 研究内容及び FIAS 分析機器室の 説明
平成 30 年 8 月 29 日	福岡市産学連携 交流センター	沖縄県・私立中高一貫校 (生徒 27 名、引率教員 3 名)	ISIT 研究内容及び FIAS 分析機器室の 説明

VI 内外関係機関との交流・協力事業等

1. 国内・海外との交流・協力活動等

研究開発等の連携協力関係を構築することを目的として、国内外の関係研究機関等との間で研究交流や協力活動を行っています。

(1) 研究機関との研究交流

事業名	開催日	場所
公益財団法人京都高度技術研究所 (ASTEM) との研究交流会	平成 31 年 1 月 21 日	ISIT・オープンスペース
九州大学 高等研究院との研究交流会	平成 31 年 2 月 7 日	福岡市産学連携交流センター

(2) 産業支援機関等との交流・協力

地域の関連機関と共同で地域課題の解決や研究開発に関連する情報提供・広報等の活動を行っています。

①三機関連携体「Joint-IFF」

北部九州地域の持続的な地方創生の促進を目的として、(公財)福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおか IST)、(公財)北九州産業技術推進機構 (FAIS) と連携したセミナー・ワークショップを開催しました。

Joint-IFF セミナー・ワークショップ			参加者	7 名 (福岡市会場) 8 名 (北九州市会場)
開催 日時	福岡市 会場	平成 31 年 2 月 15 日 (金) 10:00~15:00	場 所	福岡 SRP センタービル 2 階 研修室 2
	北九州市 会場	平成 31 年 2 月 26 日 (火) 13:00~17:00		COMPASS 小倉 会議室 A (AIM ビル 6 階)
ビジネスモデルに活かすためのアイデア発想支援セミナー・ワークショップ 「AI との共創を目指す発明思考」 講師：羽立 幸司 氏 知的財産総合事務所 NEXPAT 代表弁理士 日本弁理士会 九州支部 副支部 平成 29 年度中小企業知的財産支援力強化事業 担当講師 (三機関連携体 Joint-IFF による北部九州・山口地域の中小企業の実践的知財力、 デザイン開発力強化実践プログラム)				

(3) その他

オープンソースに特化した展示会等での最新情報の提供、ソフトウェアベンダの九州地区担当者間及び全国レベルでの情報交換の場を提供し、技術者のコミュニティづくり、人材育成を通して、地場ソフトウェア産業の競争力向上に貢献することを目的として「オープンソースカンファレンス 2018 福岡」の開催を支援しました。

オープンソースカンファレンス 2018 福岡		参加者	約 380 名
日時	平成 30 年 12 月 8 日 (土) 10:00~18:00	場所	福岡 SRP センタービル 2F 及び 1F SRP-OIL
内容	オープンソースに関する最新情報の提供 展示：オープンソースコミュニティ、企業・団体による展示 セミナー：オープンソースの最新情報を提供		
主催：オープンソースカンファレンス実行委員会 共催：株式会社福岡ソフトリサーチパーク、公益財団法人九州先端科学技術研究所			

2. 学会・協議会活動等（事務局支援）

産学連携における企業や大学研究者との人的ネットワークとして学会・協議会等の活動を支援しており、地域における学会（支部）及び協議会等の事務局業務を行っています。

① 九州 IT 融合システム協議会（ES-Kyushu）事務局活動

② 学会事務局の運営

- ・ 情報処理学会 九州支部事務局
- ・ 米国電気電子学会（IEEE）福岡支部事務局

③ 九州オープンデータ推進会議

オープンデータ化推進の課題を解決するための資料、技術、ノウハウを共有し、オープンデータに取り組む自治体を増やすことで、地域の課題解決の促進、経済の活性化に貢献する事を目的とした会議体です。年に3~4回、参加自治体のオープンデータ担当者が集まり、課題や事例の共有、共通フォーマットの検討などを行っています。

【参加自治体】福岡県、長崎県、福岡市、北九州市、久留米市

表：平成 30 年度九州オープンデータ推進会議の開催実績

開催日	名称	開催場所	参加者
平成 30 年 7 月 18 日	第 9 回九州オープンデータ推進会議	ISIT オープンスペース	13 名
平成 30 年 12 月 27 日	第 10 回九州オープンデータ推進会議	福岡市役所 北別館会議室	20 名
平成 31 年 3 月 1 日	第 11 回九州オープンデータ推進会議	久留米市役所 本庁舎 3 階 305 会議室	15 名

④ vECU-MBD WG（仮想マイコン応用推進協議会 Virtual ECU Model-Based Development ワーキンググループ）

vECU-MBD WG は、車載電子制御システムの開発効率化に向けたモデルベース開発の活用の推進を目的とした自動車関連業界の企業・研究機関（31 機関）の研究者による集まりです。ISIT は、これらの企業・研究機関が集まった中で、中立的な立場から事務局を担い、また、IT 技術の研究成果や知見を活用して実証活動へ参加しています。

【理事会・評議員会 開催状況】

会議名	開催日	内容
平成30年度 第1回理事会	平成30年5月7日 ※決議の省略	・ 評議員会の開催 (理事の選任)
平成30年度 第1回評議員会	平成30年5月10日 ※決議の省略	・ 理事の選任
平成30年度 第2回理事会	平成30年5月25日	・ 平成29年度事業報告及び決算 ・ 評議員会の開催 ・ 職務の執行状況報告
平成30年度 第2回評議員会	平成30年6月12日	・ 平成29年度貸借対照表、正味財産増減計算書、 財産目録 ・ 監事の選任 ・ 平成29年度事業報告（報告） ・ 平成30年度事業計画書、収支予算書、資金調達 及び設備投資の見込みを記載した書類（報告）
平成30年度 第3回理事会	平成31年3月27日	・ 平成31年度事業計画書及び収支予算書等 ・ 職員就業規則の改正 ・ 事務局長の任免 ・ 職務の執行状況報告

平成 30 年度 事業報告附属明細書

平成 30 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に記載する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、ありません。